

大徳寺本坊 ここあたりを紫野という。京都には色々の野があつて、枕の草子の中にも「野は嵯峨野さらなり。……」とありその中に、この紫野もあげている。

千の利休の木像を安置しているという山門のおちつき。境内の松のたたずまい。ここの庭の制作年代は、江戸初期。

視界のひろい庭。一寸みると、今見てきた竜安寺のそれに似ている。前のは庭全体に、十五の石を点々と配置よくしてある。

しかしこの方は前庭がひろく、前にはただ一つの石しかない。みなはずつと後に片よせて、石と植込みと組み合せてある。この式は江戸期のタイプらしい。東方は、はるか遠くの景色をみる。これが借景方式である。

ここまで来ると、何だかほつと一息きつきたくなる思いがする。

この方丈には、狩野探幽など有名な画家の障壁画がある。

庫裏の台所をみると、何百人分の飯を一時にたける大きなかまどが、ずらりならんでいる。黒くみがきあげた大きな柱、歩く人の姿をうつす板張り。壮観である。

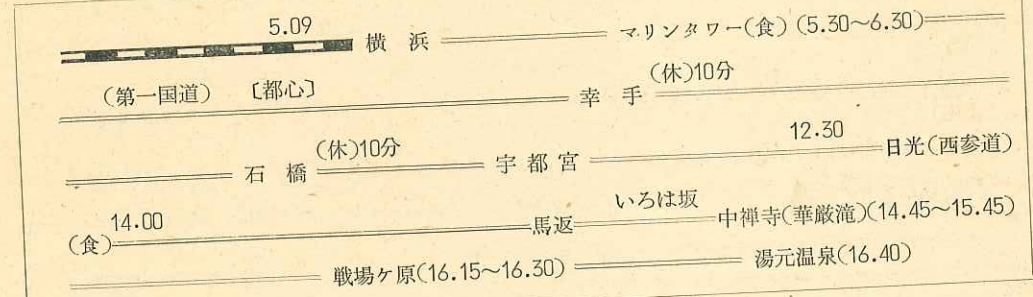
ここ大徳寺にある寺々の障子は、骨ばかりで、どこのも紙をはつてない。なぜか知らない。

境内の、小寺から小寺へ続く道は、色々の石でモザイクされた道である。その美しさに、下をむいて歩いていると、知らぬまに、何処までも歩いている自分を見出す。

清水寺 創建は九世紀。しかし現存のものは、桃山時代のもの。西国三十三ヶ所第十六番の札所。

ここの舞台から見る宗の景はいい。川端康哉の「古都」の人物も、ここから京の夕景をじつとながめている。舞台をささえる懸崖造りは、一本の釘も使わないで、数十尺の長材を縦横に組んである。「清水の舞台から飛びおりた気持ち」と言うことわざはここから来ている。やさしい音羽の滝が落ちている。この水をのむと頭がよくなると言われてはいるけれど。

3月12日 (火曜日)



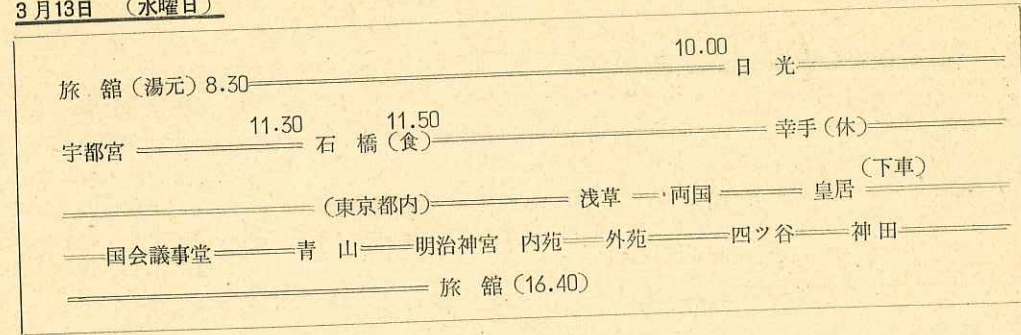
【食事】 朝食 マリンタワー(横浜) 昼食 日光西参道 あんちゃん

【宿泊】 日光湯元温泉 南間ホテル 日光市、湯元2519 TEL湯元2.10

(注意事項)

- ※ 横浜駅を出てから～日光～東京に帰るまでバスは、ほとバスを使用致します
- ※ 特にこの日は時間については厳守すること
- ※ バスに乗っている時間が長いのでバスに弱い人は、あらかじめ準備しておくこと
- ※ 日光、湯元温泉は海拔1500メートルもある高い所でまだ寒いと思いますからあらかじめ準備しておくこと

3月13日 (水曜日)



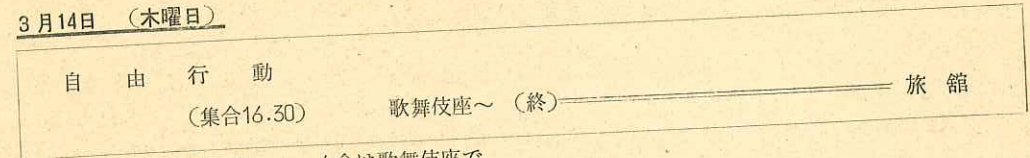
【食 事】 昼 食 石 橋

【宿 泊】 東 京 たかぎ旅館、東京都文京区弓町2-25(811)1650.7525

(注意事項)

- ※ 湯元から～東京まで同じ道を通りますので、ガイドさん説明がありません
- ※ 途中宇都宮で弁当をもらい、石橋という休憩所で食事をしますがこの日も時間が少いので食事をしてからすぐバスに乗ること
- ※ 東京都内は、17.00から～19.00まで大型の車は都心に入ることが出来ず 17.00まで外え出なくてはならない為、その交通の状態によつては多少都内のコースを変更しなくてはならないと思います

3月14日 (木曜日)

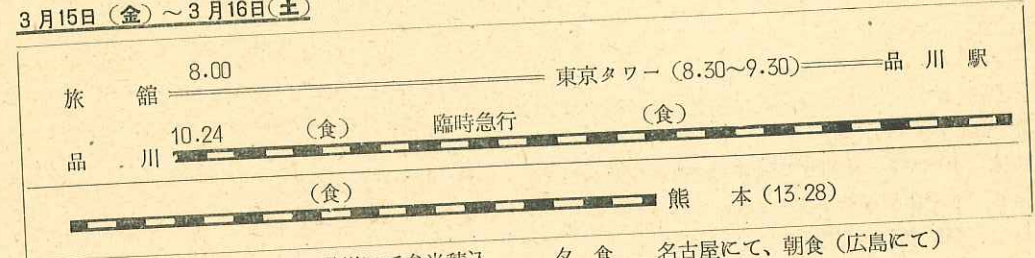


【食 事】 自 由 夕食は歌舞伎座で

【宿 泊】 3月13日と同じ

- (注意事項) ※ この日は自由行動ですが歌舞伎座前16.30集合は厳守すること
- ※ 旅館に帰ってからお土産品に整理があると思いますが翌日が早い為早く寝ずむように

3月15日 (金) ～ 3月16日 (土)



【食 事】 昼 食 品川にて弁当横込 夕 食 名古屋にて、朝食 (広島にて)

【宿 泊】 車 中

- (注意事項) ※ 最後に東京タワーは見て品川駅に行きますが時間がわずか1時間ですからバスの出発時間にはまに合よう時間は厳守すること
- ※ 最後の熊本駅に着くまで心をゆるめずかるはずみなことはしないこと